

InterOpto2018 直前特集

一般財団法人光産業技術振興協会では、最先端光技術の国際展示会である、InterOpto 2018 (International Optoelectronics Exhibition 2018) を 10月17日(水)～10月19日(金)の3日間、幕張メッセにて開催いたします。多くの方のご来場をお待ちしております。

<http://www.optojapan.jp/interopto/>

会期：2018年10月17日(水)～19日(金) 10:00～17:00

会場：展示会 幕張メッセ 国際展示場 ホール7 動向セミナー：国際会議場 303

(千葉県美浜区中瀬2-1 <https://www.m-messe.co.jp/access/>)

■展示会

InterOpto 2018は、国内外のレーザ、フォトリソ、光デバイス製品などが一堂に集まる最先端光技術の国際展示会です。出展分野は、レーザ／光源、光素子／部品、材料、光機器／装置、光産業関連サービス／ソフトウェアの広範囲にわたり、出展品目を通して光関連材料から光応用システムまで幅広い技術が展示されます。

国内の企業・団体はもとより、北米、欧州、アジア等の海外企業の出展も予定されており、光関連の幅広い技術・情報の交流が期待されるとともに、最先端技術・製品の開発状況を総合的に眺めることができます。

今年も昨年と同様に、千葉市の幕張メッセを会場として、CEATEC JAPANと同時開催(CEATECは10/16～19)いたします。例年同時開催している「LED JAPAN 2018」「Imaging Japan 2018」「MEMSセンシング&ネットワークシステム展 2018」と併せて5展示会の同時開催となることで、デバイス・材料からアプリケーションまで一貫した情報収集が可能となっております。

■セミナー

展示会と並行して、国際会議場において、当協会では光技術および光産業に関する動向セミナーを開催します。毎年、講師としてアカデミアやビジネスの第一線で活躍中の方々をお招きし、好評をいただいております。

また、展示場内に設けられたオープンスペースのセミナー会場では、展示会の「注目される光技術ゾーン」への出展会社が自らの技術・展示品を紹介する「注目される光技術セミナー」を開催します。

セミナー名	開催日	会場
光技術動向セミナー	10月18日(木)	国際会議場 303
光産業動向セミナー	10月19日(金)	国際会議場 303
注目される光技術セミナー	10月18日(木)～19日(金)	展示会場内 セミナー会場A (19-A)

■フロアマップ

All about Photonics 2018

光デバイス・レーザ技術総合展
INTERNATIONAL OPTOELECTRONICS EXHIBITION 2018
InterOpto 2018

深紫外(DUV)市場・LED応用の最先端技術展
LED JAPAN 2018

画像処理・センシング技術展
Imaging Japan 2018

MEMS SENSING NETWORK SYSTEM 2018

幕張メッセ
国際展示場ホール7
2018年10月17日(水)~19日(金)



2018年9月19日 現在

※レイアウトは変更の可能性あります。

■出展者リスト

出展者名	小間番号	出展者名	小間番号
AEMtec	33-R	サークルアンドスクエア	4-N
Chroma ATE	7-R	澤木工房	34-R
Duma Optronics	4-V	サンインストルメント	11-R
GEE	26-V	シークス	9-S
Gooch & Housego/伯東	32-V	ジオマテック	25-H4
IMRA AMERICA	7-V2	シナジーオプトシステムズ	33-J
Laser Focus World Japan	33-V	シャープ	8-R
NTT アドバンステクノロジー	12-R	ジャパンセル	3-V
OPTO TAIWAN	8-T	スキャンソル	25-M
SPIE	33-H	スペクトラ・フィジックス/日本レーザー	3-M
Zemax Japan	32-H	住友電気工業	7-T
アイ・アール・システム	34-T	セブンシックス	4-T
アイオーコア	29-T	千歳市/千歳科学技術大学	5-S
アドコム・メディア	35-V	ティー・イー・エム	15-M
アドバンスソフト	25-H8	東京インストルメンツ	29-R
イエナオプティックジャパン	32-R	トプティカフotonics	28-R
ウシオオプトセミコンダクター	21-M	トレックス・セミコンダクター	24-V
ウシオ電機	21-M	ナノシード	25-H7
エイム	25-H6	日精テクノロジー	8-N
エーディーワイ	32-S	日東光器	5-R
エガリム	30-T	パール光学工業	7-V1
エネコートテクノロジーズ	25-V	パイフotonics	29-V
大阪大学共創機構	34-M	ビーム	33-T
オーシャンフotonics	32-N	光科学技術研究振興財団	28-N
オノックスエムティーティー	23-N	光産業創成大学院大学	25-H2
オプトゲート	28-M	ファインテック日本	5-V
オプトロニクス社	34-V2	フォトテクニカ	29-M
オプトワークス	7-V5	フotonicsサイエンステクノロジー	5-T
キャノンマーケティングジャパン	32-T	フotonicsリサーチ	25-H5
グラビトン/ファーストメカニカルデザイン	25-H1	プロリンクス	7-M
クロマテクノロジージャパン	27-M	分光応用技術研究所	27-V
ケイエルブイ	16-S	米国モンタナ州	11-M

出展者名	小間番号	出展者名	小間番号
堀場製作所	5-N	光産業技術振興協会	25-T
松浪硝子工業	9-T	光電子融合基盤技術研究所 (PETRA)	28-S
丸文	1-P	産業技術総合研究所電子光技術研究部門/先進コーティング研究センター/TIA推進センター	18-E
リプス・ワークス	23-M	紫光技研	25-S
レイチャーシステムズ	32-M	長岡技術科学大学	34-MN
レーザ加工学会	34-S	島根大学 光応用計測研究室/東洋精機製作所	34-N
レーザ協会	35-R	東ソー・クォーツ	3-S
応用物理学会 フォトニクス分科会	25-H9	東亜理化学研究所	3-R
韓国光産業振興会	26-R	日邦プレジジョン	7-V4
京都光技術研究会	23-V	日本ファインセラミックス	29-N
光響	34-V1	鈴木光学/セイワ・オプティカル	30-S

■光技術動向セミナー・光産業動向セミナー

国際会議場303では、10月18日（木）に光技術動向セミナーを、19日（金）には光産業動向セミナーを開催します。

参加費は、一般財団法人光産業技術振興協会賛助会員、教育機関、公的機関、報道関係者は無料、一般参加者は¥5,000／日（消費税・資料代¥1,000含む）となっております。



展示会場（国際展示場ホール7）
セミナー会場（国際会議場 303）

(1) 光技術動向セミナー

東京大学 香取 秀俊教授による『光格子時計：新しい時間をつくる、使う』と題した特別講演

と、光技術各分野（情報処理フォトニクス、光ユーザインタフェース、光材料・デバイス、光情報通信、光加工・計測、光エネルギー）の最新技術動向について紹介します。

(2) 光産業動向セミナー

株式会社 TAK・アナリティクス・リサーチ 市田 丈人氏による『集約型からエッジへ拡大と進化を続けるデータセンタのインフラとサービス動向』と題した特別講演と、光産業全体の最新動向および光産業各分野（情報通信、情報記録、入出力、ディスプレイ・固体照明、太陽光発電、レーザ・光加工、センシング・計測）の最新動向について紹介します。

光技術動向セミナー 10月18日(木)

会場：幕張メッセ 国際会議場 303

特別講演 14:00～15:00

『光格子時計：新しい時間をつくる、使う』

香取 秀俊

東京大学 大学院 工学系研究科
物理工学専攻 教授
理化学研究所 香取量子計測研究室
主任研究員






概要：普遍的な周期現象を利用して時間を共有する道具が時計でした。1967年以来、セシウム原子の振動が国際単位系の1秒(SI秒)を決め、現在では国際原子時として15桁の精度が共有されています。この10年間に劇的な進歩を遂げた原子時計は、重力で曲がった相対論的な時空間での時間の共有の難しさを露呈させ、さらには物理学が暗黙の仮定をする物理定数の恒常性まで研究の対象にしようとしています。

光格子時計は、魔法波長のプロトコルによって、高安定・高精度な新たな原子時計の可能性を提起しました。2001年の提案以来、30近くの研究拠点で開発が進み、SI秒を100倍以上凌駕する精度は、秒の再定義を迫ろうとしています。高精度な異種原子時計の比較による物理定数の恒常性の検証や、2台の時計の高低差を重力赤方偏移として数cm精度で読み出す相対論的測地の実験を紹介します。小型・可搬化を進めている光格子時計の現状と、それらの時計ネットワークが社会実装されたときの未来の時計の役割を展望します。

(参考文献) http://app.journal.ieice.org/trial/100_11/k100_11_1303/index.html

光技術動向セミナー

10:30～ 10:35	『主催者挨拶』	小谷 泰久 一般財団法人光産業技術振興協会 副理事長 兼 専務理事	
10:35～ 11:05	『光通信ネットワークの最新動向』 デジタルコヒーレント技術を駆使した大容量長距離光伝送技術の最新動向から、従来ファイバの限界を打破しペタビット超容量を実現する空間分割多重技術、クラウド時代を支えるデータセンタをつなぐ光伝送技術、光ネットワークへの人工知能の活用、5Gに向けた次世代光アクセス、さらには昨年標準化が完了した400Gb/s Ethernetなどを取り上げ、最新の光通信ネットワーク動向を紹介する。	小林 孝行 日本電信電話株式会社 NTT未来ねっと研究所 フォトニックトランスポートネットワーク研究部 特別研究員	
11:05～ 11:35	『光技術応用ユーザインタフェースの最新動向』 車の自動運転やドローンでは、光センサやイメージデバイスが重要な技術である。また、スマートフォンやタブレット PC、ゲーム機などの高機能端末ではユーザインタフェースが大切である。本講演では、これら高機能装置に使われるディスプレイやイメージセンサなど光技術をベースとした要素デバイスの最新技術動向とともに、それらを応用したAI、自動車、コミュニケーション、教育領域でのユーザインタフェース技術を報告する。	長谷川 雅樹 華為技術日本株式会社 日本研究所 顧問	

11:35～ 12:05	<p>『情報処理フォトニクスの最新動向』</p> <p>光メモリ、データサーバー向け光インターコネクション、光演算技術の最新動向を紹介する。光メモリ技術に関しては、アーカイブシステムに向けた大容量長期データ保存記録の展開やヘルスケア用途への応用を紹介する。光インターコネクションに関しては、ボード内・ボード間、ラック間の短距離光通信技術の最新動向を紹介する。光演算に関しては、デジタル光学計測技術、ナノフォトニクス、光情報処理の最新技術を紹介する。</p>	<p>渡邊 恵理子</p> <p>電気通信大学 情報理工学研究科 基盤理工学専攻 准教授</p>	
12:05～ 13:00	<p>昼食休憩</p>		
13:00～ 13:30	<p>『光加工・計測応用の最新動向』</p> <p>2017年度に調査を行った加工技術:「アディティブマニファクチャリング:AM(3Dプリンター)」、「浜松工業技術支援センターにおける加工技術開発」、計測技術:「透明材料の屈折率分布計測」、「超解像顕微鏡」、「風計測ライダー」に関する報告を行う。</p>	<p>藤巻 真</p> <p>国立研究開発法人産業技術総合研究所 電子光技術研究部門 光センシンググループ 研究グループ長</p>	
13:30～ 14:00	<p>『光材料・デバイスの最新動向』</p> <p>光材料・デバイスについて、無機材料系におけるテラヘルツ・中赤外域、近赤外域(光通信用)、可視・紫外域と有機材料系における最新技術動向を調査した。テラヘルツ・中赤外域では、応用分野拡大の可能性と光源・センサの開発状況に関して統括的に調査し、近赤外では、通信容量増大化のための各種要素デバイスの技術動向と応用技術に着目した。可視・紫外域では、最新デバイス技術と深紫外波長域を中心に調査した。また、新たに調査対象となった有機材料光デバイスに関しては、材料技術動向と応用技術動向に関して調査したので、これらの最新技術動向を報告する。</p>	<p>中村 幸治</p> <p>沖電気工業株式会社 経営基盤本部 研究開発センター 企画室 チームマネージャー</p>	
14:00～ 15:00	<p>特別講演</p> <p>『光格子時計:新しい時間をつくる、使う』</p>	<p>香取 秀俊</p> <p>東京大学 大学院 工学系研究科 物理工学専攻 教授 理化学研究所 香取量子計測研究室 主任研究員</p>	
15:00～ 15:30	<p>『太陽光発電の最新動向』</p> <p>世界的なエネルギー転換の時代となり、我が国の第5次エネルギー基本計画(骨子案)にも、再生可能エネルギーの課題解決方針として「経済的に自立し脱炭素化した主力電源化を目指す」との文言が盛り込まれた。このようななか、世界の太陽光発電の累積導入量は2017年末に約400GWに達した。年間導入量は、中国、米国、日本の順であり、我が国は世界第3位のマーケットとなっている。講演では、Si系太陽電池を始めとする太陽光発電の最新技術動向を紹介する。</p>	<p>山田 明</p> <p>東京工業大学 工学院 電気電子系エネルギーコース 教授</p>	

光産業動向セミナー 10月19日（金）

会場：幕張メッセ 国際会議場 303

特別講演 13:30～14:30

『集約型からエッジへ拡大と進化を 続けるデータセンタのインフラと サービス動向』

市田 丈人

株式会社 TAK・アナリティクス・
リサーチ
取締役 主席アナリスト



概要: IoT や AI がもたらした新型のアプリケーションによって、演算処理の向上が一層求められている。エッジコンピューティングや、新しい技術をより早く低コストで提供できるクラウドサービスの誕生等により、DC のアーキテクチャも進化を求められている。本セッションでは、クラウド及びコロケーション・サービスの動向と、これらサービスを支えている DC 向けサーバ、ネットワーク技術、光トランシーバ、及び DCI の動向について解説する。

光産業動向セミナー

10:30～ 10:35	『主催者挨拶』	小谷 泰久 一般財団法人光産業技術振興協会 副理事長 兼 専務理事	
10:35～ 11:05	『光産業全体の最新動向』 一般財団法人光産業技術振興協会の平成29年度の光産業動向の調査結果を基に、日本の光産業全体の最新動向について報告する。また、毎年開催の光関連団体国際会議（IOA: International Optoelectronics Association）の報告の中より、世界の光産業の最新動向および今後の動向についても報告する。	菊池 純一 青山学院大学 法学部 大学院法学研究科ビジネス法務 教授	
11:05～ 11:35	『情報通信分野の最新動向』 情報通信分野における光伝送機器／装置、光部品類、および光ファイバとその関連部品の全出荷額ならびに国内生産額の調査結果および市場動向調査結果を報告する。さらに、海外市場における旺盛な光ファイバ需要や、データセンタ向けの光ファイバ関連部品や伝送レート100 Gbps光部品類の各需要の伸びなど、国内外の市場動向や最先端技術の商用化動向などの観点から調査結果を分析し、2018年度の展開を予測する。	那賀 明 茨城大学 工学部 電気電子システム工学科 教授	
11:35～ 12:05	『情報記録分野の最新動向』 光技術を用いた情報記録（光ディスク）の装置・媒体についての国内生産額および、海外生産分を含む全出荷額の調査・分析をおこなった結果を今後の市場動向も含め報告する。情報記録分野としては、再生専用装置、記録・再生装置および光ディスク媒体の各分野において調査・分析した結果も紹介する。また、長期保存性能や信頼性に優れる大容量光ディスクの普及トレンドや、普及のための課題に関しても紹介する。	品川 隆志 ソニーストレージメディアソリューションズ株式会社 シニア事業推進マネジャー	
12:05～ 13:00	昼食休憩		

13:00～ 13:30	<p>『入出力分野の最新動向』</p> <p>日本の光産業における入出力機器の動向調査・分析を行った結果を報告する。入出力機器の主要製品分野を、光学式プリンタ&MFP(複合機)、デジタルカメラ(レンズ交換式、コンパクトタイプ)、デジタルビデオカメラ、カメラ付き携帯電話、携帯情報端末(タブレット端末など)、イメージセンサ、その他に分類した上で、主要製品分野毎の産業動向や技術トレンドについても紹介する。</p>	<p>奥富 正敏</p> <p>東京工業大学 工学院 システム制御系 教授</p>	
13:30～ 14:30	<p>特別講演</p> <p>『集約型からエッジへ拡大と進化を続けるデータセンタのインフラとサービス動向』</p>	<p>市田 丈人</p> <p>株式会社TAK・アナリティクス・リサーチ 取締役 主席アナリスト</p>	
14:30～ 15:00	<p>『ディスプレイ・固体照明分野の最新動向』</p> <p>ディスプレイ・固体照明の産業動向と最新技術について概説する。ディスプレイ装置の全出荷額は、2017年度、増加を見込んでいる。その理由として景気が回復傾向であること、テレビの4K化・大型化に伴って単価が上昇していること、冬季五輪・東京五輪により買換えが促進したことなどが考えられる。スマートフォン・テレビ・車載品などのディスプレイ素子の全出荷額も増加を見込んでいる。固体照明分野の全出荷額は微増を見込んでいる。</p>	<p>藤掛 英夫</p> <p>東北大学 大学院工学研究科 電子工学専攻 教授</p>	
15:00～ 15:30	<p>『主力電源となる太陽光発電システムの現状と展望』</p> <p>太陽光発電の世界最前線では、発電コストが2セント/kWhを切り、在来型電源と同レベルを達成している。2017年の太陽光発電システムの導入量は、100 GW目前となり、特定地域での導入から世界全体に広がっている。2016年10月にパリ協定が発効されたことも追い風となり、太陽光発電システムの導入は今や世界潮流となっている。わが国は再生可能エネルギーを主力電源とする第5次エネルギー基本計画もスタートし、わが国における太陽光発電の現状を踏まえて、今後の展開について展望する。</p>	<p>一木 修</p> <p>株式会社資源総合システム 代表取締役社長</p>	
15:30～ 16:00	<p>『レーザ・光加工分野の最新動向』</p> <p>日本の光産業におけるレーザ・光加工分野の動向調査・分析を行った結果を報告する。レーザ光加工分野は、2013 年度以降毎年 10%以上程度の成長を続けており、2016 年度における全出荷額は前年比 15%増の 295,537 百万円となっている。ファイバーレーザのシェアは増進しているが、他のエキシマレーザ、炭酸ガスレーザ、固体レーザともに出荷額は増加している。講演では、各種レーザ加工装置、ランプ露光装置、3D プリンティング装置の動向ならびに最新の話題を紹介する。</p>	<p>浅川 雄一</p> <p>株式会社レーザーシステム 川崎研究所 所長</p>	
16:00～ 16:30	<p>『センシング・計測分野の最新動向』</p> <p>日本の光産業におけるセンシング・計測分野の動向調査・分析を行った結果を報告する。2016年度の全出荷額は前年度比 3.5%増、2017年度見込 7.3%増と堅調に推移している。センシング・計測機器は、生産設備投資、産業機器開発や光通信網などのインフラ整備のために必要不可欠であり、2018年度も緩やかな増加傾向と予測している。講演では、各機器の最新動向、今後注目される機器分野の動向についても概説する。</p>	<p>岩井 俊昭</p> <p>東京農工大学 大学院工学研究院 生物システム応用科学府 教授</p>	

※都合により講師・プログラムの内容が変更になる場合があります。

■注目される光技術展示・注目される光技術セミナー

光技術の最新情報が集まる当協会の強みを生かし、萌芽段階にある技術をいち早く発掘・紹介することを目的に、毎年「注目される光技術展示」と「注目される光技術セミナー」を開催しています。これらは各分野で注目されている企業・研究機関を、当協会の光技術動向調査委員会からの推薦および中小企業を対象とした出展支援事業の応募の中から選出し、これらの企業等の技術にスポットを当てて、新たな光産業を牽引することが期待される技術を展示とセミナーの両面から紹介するものです。

注目される光技術セミナーは、10月18日（木）10:55～13:10 および 10月19日（金）10:20～13:10 に、展示会場内セミナー会場にて実施します。

注目される光技術展示 出展者リスト

出展者名	出展技術(出展名)
株式会社エガリム	次世代ホログラム:Ega-rim & Holo-Window Egarim-PBS が魅せる高度ホログラム技術の世界
アイオーコア株式会社	最先端シリコンフォトニクス技術を採用した超小型光モジュール
パイフォトニクス株式会社	光パターン形成 LED 照明「ホロライト」
株式会社分光応用技術研究所	分光イメージングカメラ、ならびに分光イメージングユニット
GEE 株式会社	照明シミュレーションのレンダリング結果をリアルに表示する HDR 対応 36 型高輝度ディスプレイ
株式会社エネコートテクノロジーズ	ペロブスカイト太陽電池モジュールと二次電池等を組み合わせたデバイス
トレックス・セミコンダクター株式会社	光通信モジュールに最適な電源 IC ～コイルー体型 DCDC XCL シリーズ～
京都光技術研究会	超広帯域空間光位相変調器 UV-NIR SLM

【30-T】株式会社エガリム

高度なホログラム技術を応用した、画期的な 1 mm 厚照明機器『絵画縁』（特許取得）応用デモ機『Egarimic Holography』、および NEDO にて、平成 29 年ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業に採択され特許も取得した『採光型太陽光発電システム-Holo-Window』の改良型発電原理実証機の展示を行います。そして、エガリム新技術であるエガリム PBS を発表します。さらに今年は、我々のホログラム技術を体感していただくため、実際にホログラム露光の体験ができる『Egarim Hologram Boot Camp』を開催します。

展示製品

- ・独自技術 ホログラム照明ユニット『絵画縁』及び Egarimic Holography デモ機
- ・ホログラフィック採光型太陽光発電ユニット『Holo-Window』（原理モデル）
- ・ホログラム体験露光教育ユニット『エガリムブートキャンプ』

- ・エガリム式高効率レーザーユニットシステム SIS モデル
- ・超高コントラストガラス偏光子『Glapola』『Glapola Cube』

【29-T】アイオーコア株式会社

昨年 4 月に PETRA（技術研究組合光電子融合基盤技術研究所）から新設分割により誕生した、シリコンフォトニクス技術を使った超小型・低消費電力光トランシーバモジュールを開発・製造・販売しているベンチャー企業です。100 Gbps クラスでは世界最小クラスの超小型光トランシーバモジュールであり、従来の光技術とはひと味違った取組み内容をご紹介します。

展示製品

- ・超小型 100 Gbps 光トランシーバチップ「光 I/O コア」
- ・脱着可能ソケットを搭載した組込み向け光モジュール EOM タイプ（Embedded Optical Module）
- ・（参考）光 I/O コア搭載 FPGA ボード（PCI カードタイプ）

【29-V】パイフォトニクス株式会社

光パターン形成 LED 照明「ホロライト」は、高輝度 LED 光源と大型光学素子の組合せにより空間に様々な光パターンを形成するオンリーワン製品で、日本、米国、中国、香港で特許登録済です。様々な業界のプロフェッショナルに採用され、検査、演出、建築、道路、安全、観光、芸術、教育、実験などの用途で活用されています。近年は、安心・安全・面白い・新しい光の使い方をテーマに、工場内の労働災害を低減する安全用照明、地域や人々のもつ魅力を生かして地方創生を実現する観光用照明、光害を低減し新しい景観を創造する建築用照明を提供しています。

展示製品

光パターン形成 LED 照明「ホロライト」

- ・ホロライト・カク
- ・ホロライト・リング
- ・ホロライト・ライン
- ・ホロライト・アーチ
- ・ホロライト・アロー

【27-V】株式会社分光応用技術研究所

分光イメージング（Hyper Spectral Imaging）関連の弊社オリジナル開発製品の展示を行います。弊社従来品に比べ、容積、重量とも 1/8（100×40×40mm,230g）に納め、且つ解像度を高めた分光イメージングユニット（Spect-100vis,nir1）を展示（静態展示）致します。また、同ユニット内蔵の分光イメージングカメラ（Spect-CAM-100vis）と、同装置用に開発した 2 次元分光色彩計測用の標準ソフトウェアを用いた試料測定ならびに処理ソフトのデモ（動態展示）を行います。また、アパールデータ殿との開発品ハイパースペクトルカメラ（InGaAs1300-2150nm）のデモ（動態展示）と、空間分解分光法（SRS）装置も展示予定です。

展示製品

- ・分光イメージングユニット（SPECT-100vis,nir1）
- ・分光イメージングカメラ（SPECT-CAM-100vis）
- ・最新ハイパースペクトルカメラ（InGaAs 1300-2150nm）
- ・3 バンドイメージングユニット（Tube 3 vis）
- ・空間分解分光法（SRS）装置（開発中）

【26-V】GEE 株式会社

GEE 株式会社は光産業創成大学院大学発のベンチャー企業です。

光シミュレーションの有効活用により、交通事故ゼロに貢献する視認性の高い車載器の研究開発手法を自動車メーカー及びサプライヤーに提案しています。

車載器の視認性に関連する定量評価、官能評価するための輝度計、人工太陽光、高輝度ディスプレイ及び光シミュレーション技術を展示いたします。

展示製品

- ・2 次元分光輝度計
- ・高輝度ディスプレイ
- ・人工太陽光
- ・光シミュレーション技術

【25-V】株式会社エネコートテクノロジーズ

エネコートテクノロジーズは京都大学発スタートアップとしてペロブスカイト太陽電池（PSC）の実用化に取り組んでいます。

PSC は変換効率に優れ、軽量・薄膜であるため、モジュールの設計自由度が高く、デバイスの小型化に寄与します。

エネコートでは、PSC モジュールの高効率化・大面積化・高耐久化により二次電池と組み合わせた自立型の充発電デバイスの社会実装も目指しています。

展示製品

- ・PSC モジュールを用いた発電デバイス
- ・PSC モジュールと二次電池等を組み合わせた充発電デバイス

【24-V】トレックス・セミコンダクター株式会社

1995 年設立の国内唯一のアナログ電源 IC 専門メーカーであるトレックス・セミコンダクターは光通信機器等に最適なコイル一体型 microDCDC コンバーター (XCL シリーズ) を出展致します。

XCL シリーズはコイルが PKG に内蔵されている為、通常の DCDC コンバーターと比較して「省スペース」「低 EMI ノイズ」等のアドバンテージがあります。

制御 IC は弊社独自の DCDC 制御方式である”Hi-SAT COT”回路を使用し「高効率」を実現しています。

展示製品

- ・降圧型コイル一体型 DCDC コンバーター・新規開発した高放熱 PKG 使用製品: 18V 入力対応 XCL225/226 シリーズ
- ・昇圧型コイル一体型 DCDC コンバーター: 超小型 XCL102/103 シリーズ
- ・世界最小 負電圧出力コイル一体型 DCDC コンバーター: XCL303/304 シリーズ
- ・超省スペース降圧 DCDC コンバーター: 600mA 出力 XC9281/82 シリーズ

【23-V】京都光技術研究会

京都光技術研究会で他に先駆けて開発した UV-NIR SLM は紫外 (300nm) から近赤外 (1100nm) に渡る超広帯域で光位相制御が可能な空間光位相変調器です。主に極短パルス光のチャープ補償・パルス整形や材料の精密加工に有用です。さらに、多光子吸収による高効率 3 次元加工・生体分子機能制御・量子制御・非線形顕微分光等の応用に活用できます。

その他、研究会で取り組んでいる事業化に向けた技術・製品等を展示しております。

展示製品

- ・超広帯域空間光位相変調器 UV-NIR SLM
- ・吸光度測定システム DD8-N
- ・均一光照射ユニット FlaLumi

注目される光技術セミナープログラム

聴講無料 会場：展示会場内 セミナー会場 A (19-A)

10 月 18 日 (木)

10:55 11:25	アイオーコアのコア技術が切拓く新しい光通信市場 アイオーコア株式会社 取締役 CTO 藏田 和彦
11:30 12:00	分光イメージングと波長帯域から見る応用例 株式会社分光応用技術研究所 代表取締役社長 松本 和二
12:40 13:10	次世代ホログラム技術:Ega-rim & Holo-Window Egarim-PBS が魅せる高度ホログラム技術の世界 株式会社エガリム 代表取締役 加瀬澤 寿宏

10 月 19 日 (金)

10:20 10:50	光パターン形成LED照明「ホロライト」の事業化開発とその展望 パイフotonクス株式会社 代表取締役 池田 貴裕
10:55 11:25	光通信モジュールに最適な電源 IC トレックス・セミコンダクター株式会社 事業本部 汎用製品ビジネスユニット 藤井 和幸
11:30 12:00	眩しさの記録と表示技術 GEE 株式会社 代表取締役社長 蒲原 正広
12:05 12:35	初の紫外から近赤外の超広帯域空間光液晶変調器とモノサイクル光等への応用 京都光技術研究会 北海道大学名誉教授 山下 幹雄
12:40 13:10	ペロブスカイト太陽電池の現状 株式会社エネコートテクノロジーズ 代表取締役 加藤 尚哉

※都合によりプログラム・内容が変更になる場合があります。